

様 式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成27年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 補助事業期間 平成25年度～平成28年度

5. 課題番号

2	5	8	7	0	4	0	9
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名 ハワイ語ラジオ番組の相互行為分析

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
9 0 6 0 9 3 7 2	フルカワ トシアキ 古川 敏明	文学部	講師

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

本研究の目的は、危機言語研究に相互行為分析の視点を導入することである。具体的には、ハワイ語ラジオ番組をデータとして、データベースの構築を行い、番組内における相互行為の分析を行っている。平成27年度は研究計画の3年目にあたり、1・2年目から引き続き、(1)録音資料の分類、整理、文字起こし、(2)文字起こししたデータの分析、(3)類似例の抜粋とコレクションの構築を実施した。

(1)については、1972年から16年間にわたり400回以上放送された番組カ・レオ・ハワイの第1期の録音資料に加え、1991年からおよそ10年間、新たなパーソナリティによって放送された第2期の録音資料（およそ400回分）の存在が明らかになった。第2期の音声ファイルと各ファイルの基本情報はハワイ大学のウェブサイトで公開されていることもわかった。番組の第2期は制作スタッフおよびオーディエンスが、高齢の母語話者から若い世代の第2言語話者へと移り変わっていくので、言語の再活性化上、きわめて重要であるとともに興味深い時期であると予想される。第1期と第2期の比較のため、第1期の録音資料の文字起こしを継続する一方で、第2期の録音資料の文字起こしにも着手した。

(2)と(3)については、データ分析を進め、特異な会話現象を抜粋し、コレクションの構築を進めている。その成果の一部を8月にハワイ大学の言語学研究科で発表し、有益なフィードバックを得ることができた。また、第1期と第2期の会話データを比較しつつ、分析を進めているところである。